

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：大岡おひさま保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：石井 昭子	定員（利用人数）： 40 名	
所在地：〒232-0061 横浜市南区大岡3-9-16		
TEL：045-715-0130	ホームページ： http://ookaohisama.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：有限会社おひさま		
職員数	常勤職員：14 名 非常勤職員：7 名	
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：15(うち幼稚園教諭Ⅱ種11) 名	
	管理栄養士：1 名 看護師：1 名	
	栄養士：1 名 調理師：1 名	
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）	
	乳児室1室 調理室1室	
	保育室2室 調乳室1室	
		医務室（事務室 内）
		事務室2室
		屋外遊戯場（園庭）

③理念・基本方針

<基本理念>

集団の中で子ども一人ひとりが自分らしく生活し、成長できる場

<基本方針>

家庭的な雰囲気の中で、子どもらしくのびのびとすごせる環境を用意し、その中で一人ひとりの個性を引き伸ばせる保育を目指す。子ども、保護者と保育園が信頼しあえるような関係を築いていく。

④施設・事業所の特徴的な取組

<大岡おひさま保育園の特徴的な取り組み>

外部の研修に参加することはもちろん、保育士としての保育や心得、看護師による健康面、消防による応急救護、危機管理、わらべうた、コミュニケーション等法人内でも研修を年間で計画し参加している。また、同じ分野の研修を毎年計画することでガイドライン等の改定に基づいて学び合う事を目的としている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月29日（契約日）～ 2021年3月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

<p>【施設・事業所の概要】</p> <p>●大岡おひさま保育園は現在、定員40名の小規模園ですが、市の方針に沿い、最大7名までの受け入れ体制を整え、現在、46名の子どもを預かっています。園舎は3階建てで屋上もありますが、現在は使用していません。土の園庭が設けられ、園舎内は1階に事務棟、厨房、更衣室、ホールがあり、2階に幼児室（3歳～5歳の異年齢保育を実施）、3階は乳児室（0～1歳児室と2歳児室の2室）となっています。</p> <p>●大岡おひさま保育園の理念は「集団の中で子ども一人ひとりが自分らしく生活し、成長出来る場」であり、保育方針では、「家庭的」・「子どもらしく」・「のびのびと」・「個性を伸ばす」・「信頼関係」をベースにして保育を進めています。小さな保育園のメリットを生かし、本来の保育方針である「一人ひとりを大切にする保育」を実施していることが大岡おひさま保育園の特長です。法人は、職員教育として、小規模保育事業A型の森おひさま保育園（平成26年設立）、横浜おひさま保育園（平成30年設立）、おひさま学童クラブ（横浜保育室の跡地に設立）、そして大岡おひさま保育園の総勢60名余の職員を、磯子おひさま保育園を研修会場として年齢・階層別の研修を実施する等、組織全体の質の向上を目指しています。</p> <p>◇特に評価の高い点</p> <p>1. 【家庭的な保育の実践】</p> <p>●大岡おひさま保育園の特長の1つに、小さな保育園のメリットを生かし、子ども一人ひとりを大切にする保育の実践が挙げられます。0歳児定員3名をミニマムに3歳以上児の定員8名をマックスとした少人数の保育園の特色を生かし、一人ひとりの想いを大切にする保育を展開しています。3歳以上児は異年齢で1クラスとし、L字型の保育室を上手に工夫して活用し、異年齢、年齢別の保育を柔軟に対応しています。家庭的な雰囲気、保育室全体が見渡せる体制の中、職員と子どもたち、異年齢の子ども同士、同年代の子ども同士が「家庭」を思わせる近い距離感の中で有機的に保育が行われ、目配り気配りがされている温かい保育園です。また、食育の一環として、子どもたちがご飯を炊く活動を行い、炊飯器を幼児室に持ち込み、子どもたちがお米を研ぎ、炊きあがるまでの過程を体験し、炊飯器から湯気を上げて炊きあがるご飯の匂いが保育室に立ち込め、子どもたちの食欲をかき立てます。正しく「家庭」での姿を見るように、職員、子どもたちが一緒に過ごす家庭的な保育の在り方が行われています。</p> <p>2. 【外部講師による体操教室、英語教室の実施】</p> <p>●大岡おひさま保育園では、通常の保育に加え、外部講師による体操教室、英語教室を取り入れています。外部講師に関しては園の調査・分析を基に、英語教室はネイティブの講師を採用し、保育士の視点とは異なる外部講師のアプローチの仕方に注目され、保育士の勉強にもつながる取り組みになっています。子どもたちは、英語教室では、歌やゲーム等を通じて保育士以外の大人とコミュニケーションする体験を積み上げ、日本以外の「文化」に触れ、楽しく遊びながら英語を学び、豊かな感性を培っています。体操については、身体を動かす喜びと健康な体作りを外部講師による体操教室でサポートしています。子どもたちの小さな「できた！」の積み重ねは大きな自信につながり、将来</p>
--

の「得意」につながる可能性を持ちます。お友だちと一緒に身体を動かすことを楽しみ、子どもたちの心身の育成に取り組んでいます。

3. 【食事への配慮】

●小規模園の大岡おひさま保育園では、自園の厨房と専任栄養士、調理職員を置き、園独自の献立・食事の提供を行っています。栄養士は毎月の献立表を作成し、前月末に保護者に配付しています。園庭で植物を栽培し、きゅうりやゴーヤは近所に配るくらいの量を収穫しています。また、系列園である磯子おひさま保育園と合同で「芋ほり」も体験し、小規模園の子どもたちの大人数での活動として良い機会となっています。前述のように炊飯器を幼児室に持ち込み、お米を研いで炊くことの実践は家庭的保育の典型であり、子どもたちへの声かけも家庭と同じようにして楽しく食事時間を過ごしています。給食だよりには園のレシピを載せ、食事の内容はディスプレイにスライドショーで示し、家庭での食育につなげています。子どもたちは、散歩の帰りに「今日のご飯は何？」と厨房を覗き、昼食後に「今日の〇〇は美味しかった」と感想を言いに来たりする等、栄養士や調理職員と良好な関係が築かれています。

◇改善を求められる点

1. 【地域子育て支援の推進】

●大岡おひさま保育園は小規模園であり、園内活動としては異年齢、年齢別の保育に柔軟に対応し、家庭的な雰囲気、保育士と子どもたち・異年齢の子ども同士・同年代の子ども同士が、「家庭」を思わせる近い距離感の中で、有機的に、保育士の目配り気配りのある温かい保育を進めています。地域子育て支援に関して、近隣住民への施設開放や、園行事への招待等は園の所在位置的に難しい面もありますが、今後は地域の文化施設(地区センター等)の会場を利用する等して、地域で保育を利用していない家庭に対して、子育て講座の実施や育児相談、子育て交流会を行う等、地域貢献が望まれるところです。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：大岡おひさま保育園

<評価に取り組んだ感想>

第三者評価受審に向けて、職員間で勉強会を小・中・大グループで段階的に行うことで、職員一人ひとりが運営や保育を深く考えるきっかけや他者との共有から気づきへとつながりました。また、自己評価票を通じて保育所保育指針等の指針や法の改正にも気が付くことができました。特に中・長期計画の作成は、第三者評価の受審がきっかけとなったため、定期的に第三者評価を受審することの必要性を強く感じました。

自己評価票の中で具体的な取り組みが不透明な点に関して、調査者へ質問すると丁寧に説明していただき、実際に取り組んでいたことが分かる等、大変参考になりました。実際にはすでに取り組んでいることを、自己評価票の項目と紐づけしていただき、理解へとつながりました。また、取り組みが不十分な点に関しては、取り組み例を提示していただき、これからの課題として明確になりました。

保育に関して事例も交えて、お話をしていただき、保育の質を高めるためのアドバイスをしていただけました。

<評価後取り組んだ事として>

事務所の前にご意見箱を設置しました。

伴って、すぐに記入できるようにメモ用紙を準備しました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり